

◇牡丹燈籠 (九卷)

帝キキ 時代映畫

脚色者 三遊亭圓朝口演

監督者 上島量

撮影者 山下秀一

主演者 池田專太郎

松本田三郎

松枝鶴子

第三百七十三號

紹介 云ふまでもなきこれは絳涼怪談映畫。然し今年もか、さ云ひ度くなる。圓朝の口演をその儘に何等の新しさをも持つてはゐない。つまりは夏は怪談と未だに考へてゐる製造者が只管に興行價値をもくろんだに過ぎない。新劇帝キキもこうしたものを運發してゐては到底ラチが明かない。監督山下秀一は帝キキ古参の一人、古き手法の裡に凡々たる委。お露の靈の出現とその動きの場に稍々苦心の跡を思はせるが、これとてピンと來るものではない。せめてお露の戀情を強調して、焦れ死するまでに極力務めたならば効果も擧つたことであらう。出演者は言ふ程でない。田三郎の二役も意味はない。新三郎の方のその人らしい風影だけは取る。キキメラは鈍重。池田重

興行價値——地方向き。(七月廿二日 常盤座)